

## 保育計画成果報告書

法人名等	特定非営利活動法人かもめ
施設名	東戸塚かもめ第4保育園
報告者（役職）	吉武 志保子（ 園長 ）
住所・連絡先	横浜市戸塚区品濃町 515-1 ニューシティ東戸塚南の街 2 - 104
	☎ 045 - 382 - 9589
	E-mail lokki@kamome - hoikuen.com

### ○タイトル（保育計画）

小規模保育施設間の有機的連携を図り、集団生活の意識を育む保育の実践

### ○主な助成備品

ままごとセット、ブロック、トンネルパネル、トレインセット、楽器

## 1. 保育計画策定の目的

横浜市戸塚区に位置する本園は、東戸塚駅から徒歩3分の小規模保育園です。平成28年に第1園のかもめ保育園開園、第2・第3保育園は令和2年に開園、第4保育園が令和3年に開園し、いずれの保育園も半径30メートル以内に位置しております。小規模保育園なので各園の園児、0歳児は2・3名、1・2歳児は各6名と小人数です。0歳児から2歳児クラスが一緒のフロアで過ごすことにより、縦割りの保育の経験は多くの場面で見られますが、幸いにも近くに小規模保育園が4園ありますので、同一年齢の年齢別合同保育を行うことが安易にできます。そして、その年齢に見合った活動、遊びに集中して遊びこむことができます。子どもたちは遊びを通して社会性や思いやり、心身のより良い発育をします。そして協調性を身につけ、遊びが広がり交流することによって、連携園に進級しても自分の意思を伝える能力が養われ、新しい環境に慣れることができると思います。

小規模保育園の改善すべき内容は3歳児から進級の際、持ち上がってきた3歳児クラスの集団に上手く馴染めない実態があり、大きな集団に不慣れな点です。2歳児は意図的に集団での遊びを多く取り入れながら、進級に向け、社会性を培う集団遊びによってスムーズな進級につなげたいと考えました。

## 2. 具体的な実施内容



電車遊びでは、線路を凹凸に上手く合わせて組み、長く伸ばして遊んでいます。各園に玩具を分けて配置することによって、子どもたちが各園に遊びに行ける環境を作り、保育士も他の同一法人保育園での訪問なので敷居が低く、一緒に遊ぶことにより、他園の子どもたちとの交流もより深まってきます。



ままごとキッチンを使ったままごと遊びの風景です。このキッチンとガスレンジ台は、同時に3名の子どもたちが遊ぶことができるものなので、場所の取り合いもなく、ゆったりとままごと遊びが体験できます。子どもたちは役になりきって、遊びに集中し、ごっこ遊びが盛り上がります。



子どもたちは楽器遊びが大好きです、歌や音楽に合わせて好きな楽器を選んで演奏します。時にはお誕生会などのお祝いに、演奏することもあります。



このブロックは、柔らかな素材でできているので、子どもたちが思いっきり遊ぶのに安全にできています。大型のブロックは創造性を掻き立て、横に並べたり、縦に積み上げたりして、空間把握を身につけるのにも役立ちます。



柔らかな素材でできているパネルを組み合わせて、迷路やトンネルができます。子どもたちはどの形なら自分はいくぐれるか、身体をどのように動かせばよいかを遊びながら学び取っていきます。組み合わせによっていろいろな遊び方ができるので、保育士も年齢に合わせて工夫して遊ばせています。

### 3. その成果と評価

今回購入した玩具を使用し、4つの保育園の子どもたちの交流を図り、保育を進めてきました。0歳児クラスのお子さんが1名の保育園も2園あり、他園との同年齢の子ども同士との遊びの中で、手の活動、足の指の動き、身体の使い方など保育士たちは工夫して交流します。1・2歳児のお子さんたちは各園8名ずつ、交流も隣の保育園からと、日々の生活の中で自然と室内遊びの子どもたちの遊びの幅が大きく広がり、同一年齢の子どもたちとの遊ぶ回数が増えました。そして、保育士たちも、他の保育園の子どもたち、他の保育園の保育士の保育を観ることによって、保育見識も広がりました。特に2歳児は他のかもめ保育園連携園に進級する子どもとの遊ぶ場面が多く持てるようになり、進級園での新しい友達の中に入ってゆく不安も半減しつつあり、その様な子どもたちの交流の様子を保護者に伝えることにより保護者の進級することへの不安も減ってきています。

#### 4. 今後の課題と展望

今回の玩具類を使用して日々の保育を行い、同年齢の子どもたちの交流を重ねていくことにより、現在小規模保育園の抱えている課題「少子化が進み横浜市戸塚区は0歳児の定員が満たない現状、1歳児でも空いている状態」に対応していきたいと思います。小規模保育園では、一人ひとりの発達に応じた丁寧な保育の実践、異年齢保育交流の中での、他者とのコミュニケーション能力を育む保育の実践が問われていると考えます。

2015年から事業展開された待機児童解消のための小規模保育事業から脱皮して、乳児園ならではの保育、認可保育園の乳児保育との差別化を図ることが急務と考えます。

以上の内容を勘案しつつ、今後、小規模保育事業の利用を考えている保護者への周知を進め、厳しくなる小規模保育事業の存続に向けて更なる努力を続けていこうと考えています。

以上